

松本市における 食品ロス削減の取組み



松本市 環境政策課



◇ 松本市のごみ減量施策

「もったいない」をキーワードに、3Rの取組みを推進

- ◎ 食品ロス削減事業(平成22年度～)
- ◎ 園児を対象とした参加型の環境教育(平成24年度～)
- ◎ 不用食器リサイクル事業(平成25年度～)
- ◎ 紙類常設回収場所設置(平成23年度～)
- ◎ 剪定枝等資源化事業(平成25年度～)
- ◎ ごみ減量機器購入費補助事業
- ◎ 生ごみリサイクルのための堆肥化講習会 など

◇ 食品ロス削減事業

飲食店での食べ残しを減らす取り組み

残さず食べよう！30・10運動（平成23年度～）

- ・ 宴会時、乾杯後に席を離れお酒を注ぎ合う
- ・ お開きの際に万歳を行う



- ・ 料理をゆっくり味わう時間（30分間ルール）



お開き前の10分も追加し、「**残さず食べよう！30・10運動**」として実施

- ① 注文の際には、適量を注文しましょう。
- ② 乾杯後30分間は席を立たず料理を楽しみましょう。
- ③ お開きの前10分間は自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう。

◇ 食品ロス削減事業

飲食店での食べ残しを減らす取り組み

啓発グッズ



ポケットティッシュ
(平成24年度～
平成25年度:50,000個作成)



コースター
(平成24年度～
平成25年度:10,000枚作成)

◇ 食品ロス削減事業

飲食店での食べ残しを減らす取り組み

啓発グッズ

宴会での食べ残し削減にご協力ください。

日本では食料の約60%以上を海外からの輸入に頼っています。それなのに、まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」は、全国で年間に500万〜900万トンもあるとされています。これは1年間に生産される米の量と同じくらい量の量です。

家で…

- 野菜や果物の皮を早くむき過ぎたり、肉などの脂の部分を取り除いたり（過剰削ぎ）
- 食事を作り過ぎて食べ残された。
- 買ったものなどを冷蔵庫に入れたまま忘れて、期限が切れたり賞味期限が過ぎたりが原因で生じた。

飲食店、販売店で…

- お客様の食べ残した料理。
- 仕込み過ぎてお客様に提供できなかった。
- 商品の価格変更、期限切れ、パッケージの破損ミスなどによる返品。

食べ物への感謝の気持ちを大切に、残さず食べることを心がけましょう！

外食の際の食べ残しも大きな問題です。例えば、宴会では、会話やお酒に夢中になってしまい、料理も残しがちになってしまいます。実際に、宴会では1割以上の料理が残されています。もったいないですよね。そこで、特に食べ残しが多い、会食、宴会席での食べ残しを減らすために、

残さず食べよう! 30・10運動 を推進しています。

30 10 運動

さん まる いち まる

会食、宴会席での食べ残しを減らす運動です。

忘年会・新年会のシーズンです。幹事さんの心配りで、食べ残しもぐんと減らせます。

●予約する時には、参加者の年齢層や男女比などをお店の人に伝えましょう。
●宴会開始前までに終了前に残さず食べよう(30・10運動)の趣旨を説明し、食べ残しが出ないようにしましょう。
●大皿にちょっとずつ残ったお料理は、食べられる人に勧めましょう。

事業所の皆さん

飲食店の皆さん

食品ロス削減の取組みでは、このような事例があります。

- 小盛り、ハーフサイズメニューなど分量の少ない商品を提供する。
- 予約時に年代・性別・食事の量等を聞き取り、仕込みの段階で材料を無駄なく使う。
- 商品の売却/販売や寄付の取組などを実施する。

「もったいない」を心がけ、食品ロス削減の取組みにご協力ください。

「残さず食べよう! 30・10運動」のPR用ポスターデザインを作成しました。店舗等に置いてご利用いただける方は、ぜひご連絡ください。

お問い合わせ 松本市 環境政策課 Tel: 34-3268 Fax: 34-0400 Email: s-kankyo@city.matsuyama.nagano.jp

健康寿命延伸都市・松本

残さず食べよう!

30・10 運動

さん まる いち まる

会食、宴会席での食べ残しを減らす運動です。

1 注文の際には、量を注文しましょう。

2 乾杯後30分間は、席を立たず料理を楽しみましょう。

3 万端の時に10分間は、自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう。

健康寿命延伸都市・松本

商工会議所会報折込チラシ(A3)
(平成24年度～
平成25年度:4,500枚作成)

ポスター(A3半分)
(平成23年度:3,000枚作成)

◇ 食品ロス削減事業

飲食店での食べ残しを減らす取り組み

モデル店舗の取り組みと効果(平成24年11月～)

市の宿泊施設(梓水苑)において、施設を管理している指定管理者と協力して、モデル的な取り組みを実施

市としてのメリット

- ごみの減量

店舗側のメリット

- せっかく作った料理を残さず食べてもらえる
- ごみ処理料等経費の削減
- 片付ける手間の効率化

◇ 食品ロス削減事業

飲食店での食べ残しを減らす取り組み

モデル店舗の取り組みと効果(平成24年11月～)

- ポスター、ティッシュ、コースターによる啓発グッズの活用
- お店のチラシ、ホームページ等での紹介
- 残さず食べていただく工夫

料理を出すタイミング

(暖かい物は暖かく、冷たい物は冷たく、ごはん物を出すタイミング等)

メニューの工夫

(白飯から鯛茶漬へ、一口サイズ、骨まで食べれるような調理等)

お客さんへの声かけ



食べ残しが半分程度に減少 ※

ごみ処理料の減少、片付けが楽に(人件費、水道料等の削減につながる)

※(平成25年1月、9月:モデル店舗への聞き取り結果)

◇ 食品ロス削減事業

飲食店での食べ残しを減らす取り組み

他市町村への広がり

近隣市町村も「残さず食べよう！30・10運動」を推進



塩尻市(H24～ H25:20,000枚作成)



山形村(H25～ H25:20,000枚作成)

◇ 食品ロス削減事業

家庭での食べ残しを減らす取組み

園児対象の環境教育(平成24年度～ 取組期間(H25):5月～12月の8ヶ月間)

食べものを作ってくれた人への感謝の心、資源の大切さを忘れない心を育むためには、幼いころから環境に対する意識を高めることが大切であることから、感受性豊かな園児を対象に参加型の環境教育を実施

対象 公立全保育園・幼稚園 年長児(全46園)

各種イベントなどでの啓発活動

食品ロス削減やごみ削減等の取組み例を紹介したパンフレット及び冷蔵庫などに園のお便り等と一緒に貼って、食べ物の大切さを再確認できるマグネットを作成し、年中児の歯科指導教室、各種イベント等で配布(平成23年度～)



◇ 食品ロス削減事業

家庭での食べ残しを減らす取り組み

園児対象の環境教育

キーワード
「参加型・とにかく楽しく」

○パワーポイントを使ったクイズと説明

「捨てたものはどうなる？」

ごみとして捨てられたものはどうなるのか、分別したものは、新しい物に生まれ変わることを、パワーポイントを使いクイズ形式で説明

「食べ残したものはどうなる？」

食べ残した食品残差は焼却場で燃やされるが、食べたものは体をつくってくれる。心をこめて作ってくれた人への感謝の心が大切ということを説明



◇ 食品ロス削減事業

家庭での食べ残しを減らす取り組み

園児対象の環境教育

○実際に分別してみよう

ごみ箱に入っているごみを実際にチェック(お菓子の箱、アメの袋、ティッシュ等)



○踊ってみよう

「おいしく飲んでリサイクル(名古屋市環境局作成)」をみんなで踊る



◇ 食品ロス削減事業

家庭での食べ残しを減らす取り組み

園児対象の環境教育の効果

園児対象の参加型の環境教育について、内容を見直しより有意義なものにするとともに、効果等を検証するため、全園に対してアンケート調査を実施

- 1 調査対象：全47保育園
- 2 調査方法：アンケート用紙による回答
- 3 調査時期：平成25年3月1日～15日
- 4 回収率：100%
- 5 設問
 - ・こども達の理解度
 - ・プログラムの構成
 - ・環境教育実施後、園児に様子等変化があったか
 - ・環境教育実施後、園で新たな取り組みがあったか 等

◇ 食品ロス削減事業

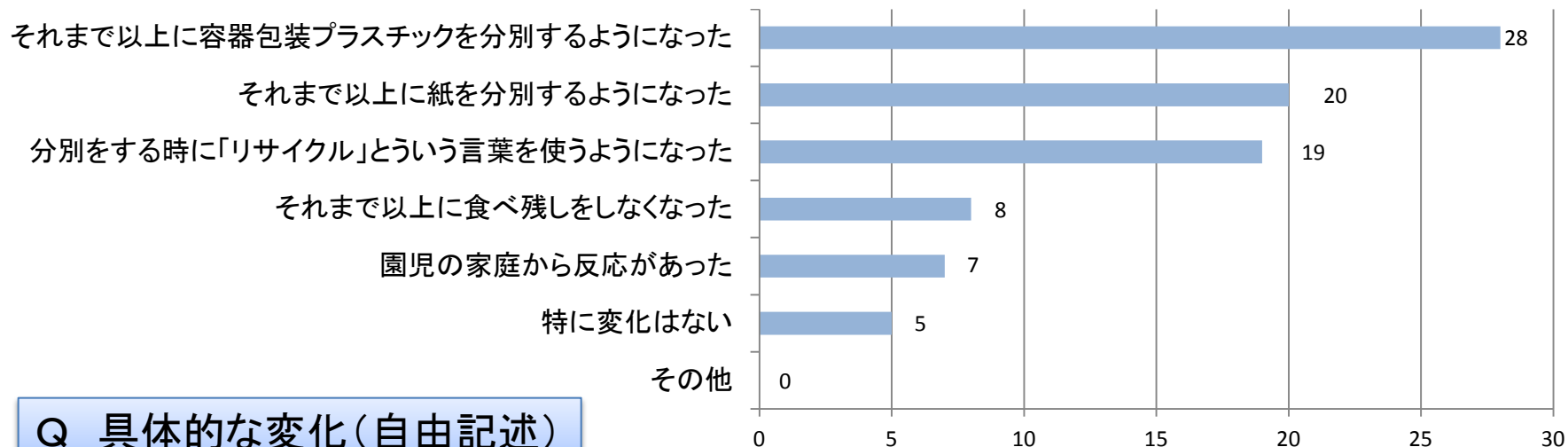
家庭での食べ残しを減らす取り組み

園児対象の環境教育の効果

(平成24年度アンケート結果から)

Q 環境教育実施後、園児の様子等に変化があったか

(単位 園)



Q 具体的な変化(自由記述)

○残さず食べようと努めるようになった。

○牛乳の苦手な子が、食べ残しのことを知ってから飲むようになった。

○家に帰ってごみ箱の中をチェックした子どもが多かったようで、「きちんとしないと」話す保護者がいた。

○おやつの袋を「これリサイクルできるよ。」と声をかけ合う姿が見られるようになった。

◇ 食品ロス削減事業

家庭での食べ残しを減らす取り組み

園児対象の環境教育の効果

(平成24年度アンケート結果から)

Q その他(感想、要望等) 自由記述

○内容を聞くだけではなく、目で見て理解できたので、わかりやすかった。環境教育は継続していくことが何より大事と思います。

○ゴミの分別やリサイクル等について子ども達が想像以上に関心があり驚きました。毎日のことなので改めて分かりやすく説明していただき、さらに意識できるようになりました。

○お便りで家庭に知らせる「小さい頃からこういう話を聞くのは大事だと思う」という意見が出ました。

○楽しみながら参加でき、意識も高まったと思います。今後も継続して欲しいです。

○今後も継続してほしいです。保育士の働きかけや家庭での習慣付けで、子ども達の意識は変わってくると 생각합니다。

◇ 食品ロス削減事業

飲食店・家庭での食べ残しを減らす取組み

今後の展開・課題等

食品ロス削減の取組みによる効果と検証（平成25年度）
（地方消費者行政活性化基金を活用）

○啓発事業及び意識変化調査

一般市民対象

意識付けを行う前と後で、意識及び行動に変化があったかを調査

園児対象

環境教育実施後で意識及び行動に変化があったかを調査

○生ごみ組成調査

「残さず食べよう！30・10運動」の更なる浸透

園児対象の環境教育の継続、効果の向上

料理の持ち帰り

等